

科名 血液内科
 対象疾患名 再発・難治性の多発性骨髄腫
 プロトコール名 ERd 3クール目以降

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	8	...	15	...	22	...	28
1	点滴注	メイン	生理食塩液	500mL	ルートキープ 残破棄	↓				↓				
2	点滴注	側管	デキサート注 ファモチジン注 生理食塩液	6.6mg 20mg 50mL	30分かけて 投与終了後、前処置薬を内服し、 ルートキープにて45分休薬	↓				↓				
45分休薬														
3	点滴注	側管	エムプリシティ 注射用水 生理食塩液	10mg/kg 13mL 250mL	300mL/hr 投与45分前までに前処置薬を内服して いることを確認 フィルター付きルート使用 体重50kg未満は希釈液150mL 50-90kgは250mL 90kg以上は350mL	↓				↓				
	経口		レナリドミド	25mg/body								d1~d21		
	経口		デキサメサゾン	28mg/body	エムプリシティ投与 3-24時間前	↓				↓				
	経口		デキサメサゾン	40mg/body						↓			↓	

★1クール=28日

～MEMO～

催吐リスク2(10%以上30%未満)

フィルター付き(回路名:JY-PF340P52)を使用

・妊婦・妊娠の可能性のある患者には禁忌

・必ずレナリドミド、デキサメサゾンと併用して使用すること。

レナリドミド: day1-21投与、7日間休薬、デキサメサゾン: 経口で day1,15は28mg、day8,22は40mg を投与する。

《インフュージョンリアクション対策》

・前投薬(デキサート、ファモチジン)投与終了後、アセアミノフェン0.5g/回、ホラミン(2)1T/回を内服し、ルートキープにて45分休薬。

・エムプリシティ: 0.5mL/minの投与速度で点滴静注を開始し、患者の忍容性が良好な場合は、患者の状態を観察しながら、投与速度を以下のように段階的に上げることができる。ただし、投与速度は5mL/minを超えないこと。

1クール目 day1: 投与開始0-30分(0.5mL/min)→30-60分(1mL/min)→60分以降(2mL/min)

1クール目 day8: 投与開始0-30分(3mL/min)→30分以降(4mL/min)

1クール目 day15以降: 投与開始～(5mL/min)

・エムプリシティ調整方法: 300mgの製剤の場合は13mL, 400mgの製剤の場合は17mLの注射用水で溶解し、

25mg/mLの濃度とした後、体重50kg未満は150mL, 50-90kgは250mL, 90kg以上は350mLの生食又は5%ブドウ糖液で希釈する。